

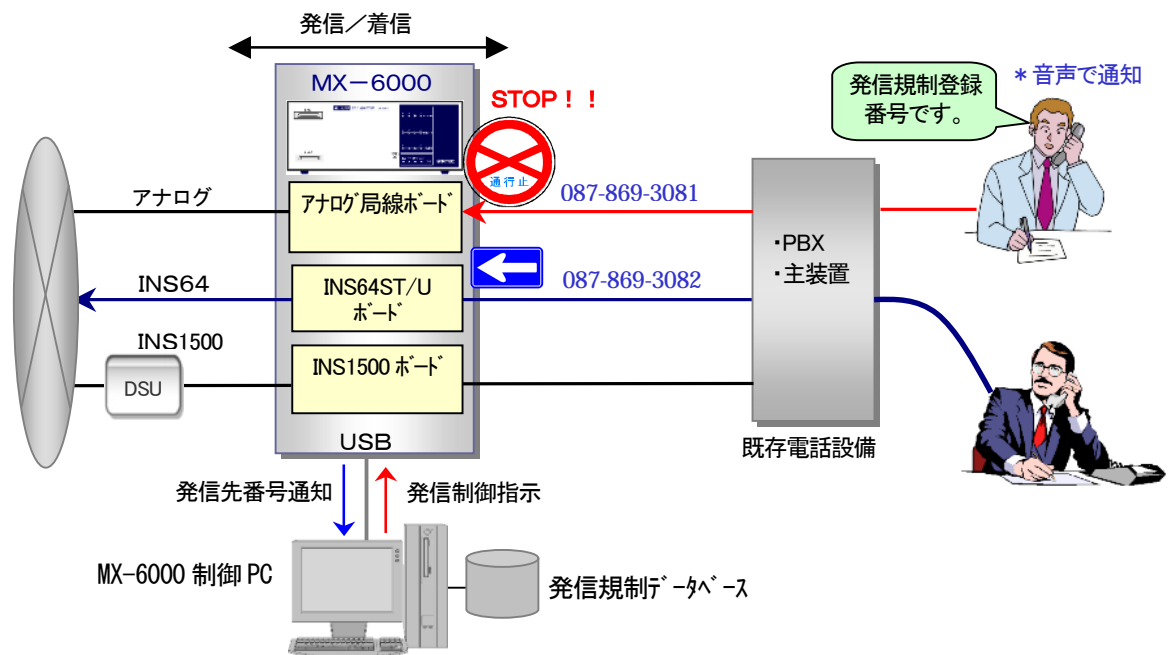
MX-6000による発信規制システムの構築

『営業コールを拒否』されたお客様への再コール防止に有効な発信規制システム。
MX-6000では、PCアプリケーションからの簡単な制御により、既存の電話設備を活用したユニークな発信規制システムをローコストで構築することができます。

特徴

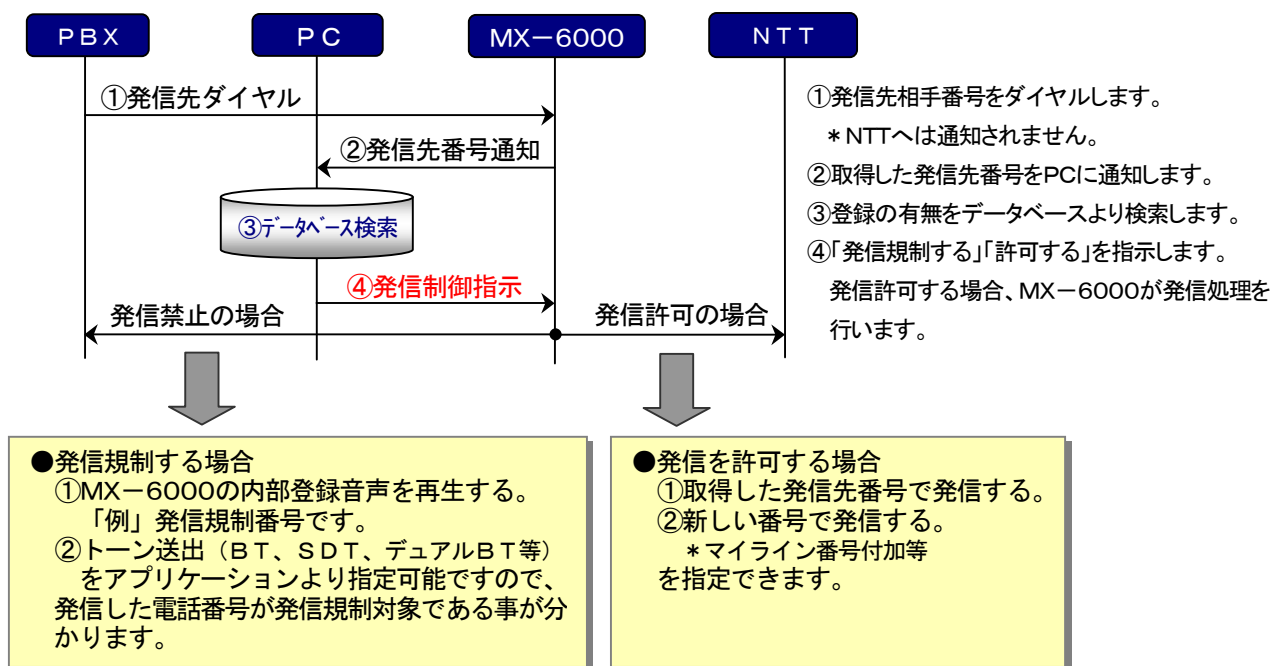
- 既存電話設備（PBX等）とNTT交換機の間にはMX-6000を挿入設置するシンプルな構成です。
※既設の電話設備を交換する必要がありません。
- 着信・発信における電話操作は今までどおりの操作で行う事ができます。
- アナログ／INS64／INS1500に対応します。
- 回線数は最小4回線から最大60回線までサポートします。（4回線単位の増設）
※INS64は2（4B）～30回線（60B）、INS1500は1～2回線。
- アナログ、INS64およびINS1500を混在出来ます。
- 発信規制時は、音声または特殊なトーンでお知らせします。
*再生音声はお客様にて自由に作成可能です。（作成ユーティリティ標準添付）
- PCへ通知する発信先電話番号は184等の特番、マイライン事業者番号等を削除して通知します。
- PCアプリケーション開発をサポートする開発キット（SDK）標準添付。

システム構成例



- ※INS64回線の場合は、U点接続、S/T点接続のどちらにも対応します。
- ※INS1500回線の場合は、DSUとPBXとの間に設置します。
- ※一般アナログ単独電話機またはTA等の接続も可能です。

発信制御手順



※PCアプリケーション停止時には指示タイムオーバーにより「発信規制する」「そのまま発信する」を設定できます。
(タイムオーバーでの発信規制時は、PCからの発信規制時と異なるトーンを送出できます)

システムの拡張

発信規制システムとしての運用だけでなく、MX-6000の豊富な機能を併用する事により、より付加価値の高いシステムを構築する事が可能となります。

■コール集計

回線状態通知機能により「相手話中」「発信中断」「相手応答」「通話終了」を取得・記録出来ますので、総コール数、平均通話時間、有効発信率、無効発信率、相手話中率等を集計するにより生産性の高いアウトバウンド・コールに役立てる事が出来ます。

■通話録音

通話中の音声をPCのハードディスクに保存する事が可能です。(全60回線)

録音フォーマットはWindowsのWAVE形式で保存されますのでパソコンのサウンドボードで再生する事が可能です。

* 録音フォーマット 8bit μ -LAW、サンプリング周波数8kHzモノラル(480kバイト/分)

■通話モニター

通話中の音声をモニターする事が出来ますので、管理者による通話監視、ベテラン社員の通話内容を聞く事による新人教育等に使用できます。

【モニター方法】

- ① MX-6000から直接ヘッドフォンで聞く (回線選択のアプリケーションが別途必要です)
- ② 内線ボードに接続された電話機より聞く (アプリケーション不要。最大4人まで同一回線のモニター可)

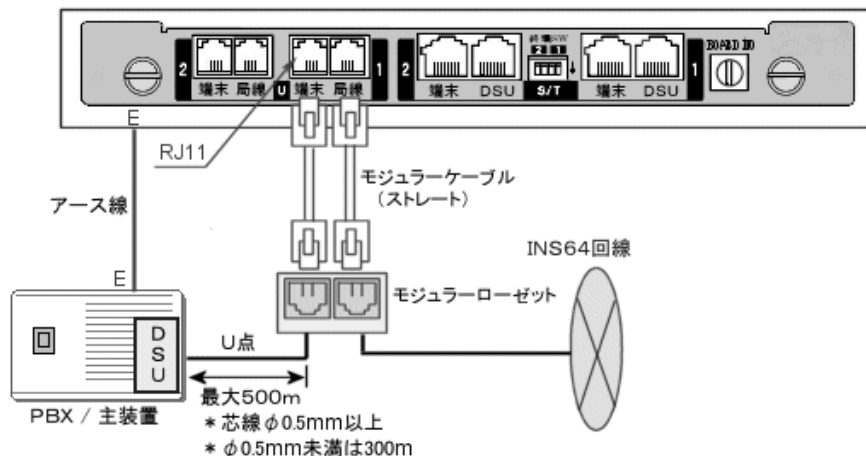
■自動応答

業務終了後や休日等のお客様からの着信に対しMX-6000を自動応答装置として動作させることが出来ます。

※自動応答の動作指定はc h単位で指定可能です。

機器接続

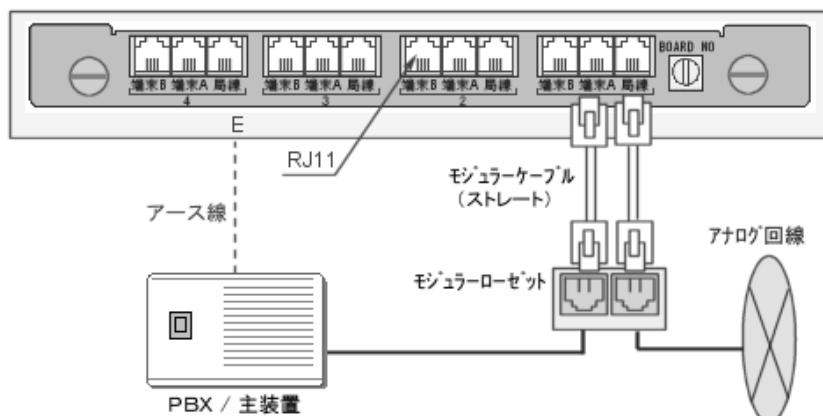
■INS64回線の場合



■INS64STUボード/BF
[WBD667]

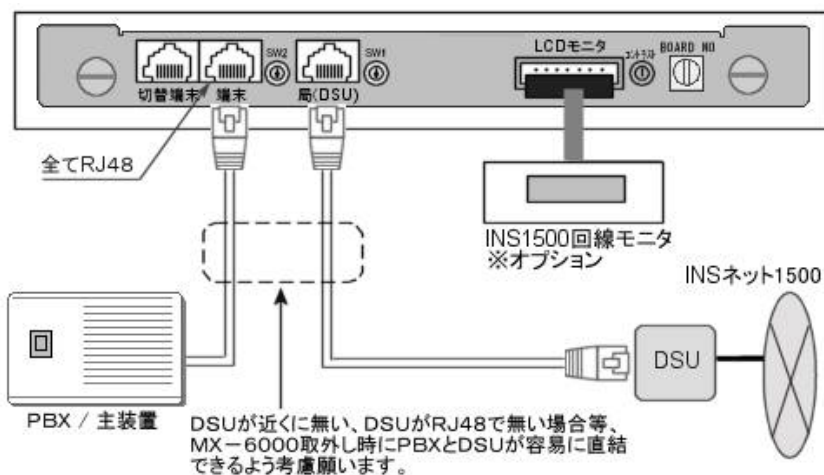
※S/T点接続の場合も網側とPBX間に挿入設置します。

■アナログ回線の場合



■アナログ局線ボード/BF
[WBD663]

■INS1500回線の場合



■INS1500ボード
[WBD639]

動作環境

USBポートを有するPC/AT互換機	
CPU	: クロック周波数1GHz 以上*1 ※32bit(x86 系)、64bit(x64 系)プロセッサに対応。 ※IA-64 プロセッサ、複数プロセッサには対応していません。
OS	: Windows Server 2022 Standard Windows Server 2019 Standard Windows Server 2016 Standard Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 Standard Windows Server 2008 R2 Standard + SP1 以上 Windows Server 2008 Standard + SP2 以上 (32bit、64bit) Windows Server 2003 R2/2003 Standard + SP2 以上 (32bit、64bit) Windows 11 Pro Windows 10 Pro (32bit、64bit) Windows 8/8.1 Pro (32bit、64bit) Windows 7 Professional + SP1 以上 (32bit、64bit) Windows Vista Business + SP2 以上 (32bit) Windows XP Professional + SP3 以上 (32bit) Windows 2000 Professional + SP4 ロールアップ 1 v1 以上 ※上記の 32bit(x86 系)、および 64bit(x64)の日本語版OSに対応。 ※64bit(x64)版は、「Server 2003」以降のサーバーOSのみ対応。 ※Windows2000 は USB1.1 のみ動作
メモリー	: 512Mbyte 以上*1 (1G バイト以上を推奨)
SDK 開発言語	: Microsoft Visual Studio 6.0 (C++, Basic) Microsoft Visual Studio 2005 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2008 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2010 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2012 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2013 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2015 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2017 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2019 (C++, C#, Basic) Microsoft Visual Studio 2022 (C++, C#, Basic) ※何れも、日本語版で且つ、 32bit(x86) 、および 64bit(x64) 用のデスクトップ・アプリケーション開発に対応しています。(IA-64 版には対応していません)

* 1. アプリケーション処理およびCH数によっては上記以上のスペックが必要となる場合があります。

※詳細は、製品添付のSDKマニュアルを参照願います。